どのようにして確かなコンピテンシーを活用する子どもの姿を表出できるか

平田 昌志

1．本実践研究の意図

言語活動を通して単元で身に付けさせたい力を習得させていく。身に付けさせたい力を確かめるために単元の最後に適用題を設定するが、単元の中での手段や手法はそのままで題材を変えて行うことが多い。例えば「『名前を見てちょうだい』の劇の台本を作ろう。」という言語活動なら、適用題は題材を変えて「『ニヤーゴ』の劇の台本を作ろう。」としたものである。しかし、コンピテンシーベースの学習で身に付けさせたい力が明らかであれば、言語活動を変えても身に付けた力を活用し課題達成ができるのではないかというのが今回実践を行った意図である。

そこで、適用題において言語活動を変えて行うことで、身に付けたコンピテンシーがより目に見える形で子どもの姿として現れるのではないかと考える。さらに、単元の中で見出した課題などを適用題に用いることでより深い学びにつながるのではないかと考えた。また、単元前に行った「様子を表す言葉集め」や「類語集め」「学習のてびき」などこれまで学習してきた履歴を用いて学習を進めることで、系統立てて学習することができると考える。そうして身に付けたコンピテンシーを活用することで登場人物の言動や場面の様子を正確に読み取ることができると考えられる。適用題における言語活動を変えることで、本単元で育成を目指す資質や能力の育成を図ることを意図して本実践研究を行った。

2．単元　２年２組出版社　みどころの入った本の帯を作ろう。

2.1　児童について

本学級の児童はこれまで「風のゆうびんやさん」で人物の様子について特徴がわかる言葉見つけたり、集めたりする経験をしている。その学習経験において人物の様子を捉え、内容の大体を捉える力を習得している。また「名前を見てちょうだい」では、場面の様子と登場人物の行動をくらべ、劇の台本を作る経験をしている。場面ごとの登場人物の様子を捉え、場面と人物の関係捉える力を習得しつつある。一方、これからの学習では、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像する力を習得していく必要がある。

2.2　単元について

(1)単元の目標

・　場面の様子について，登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

(2)本単元で育成を目指す力

・場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力。

(3)本単元における言語活動

本作品は、貧乏なおじいさんとおばあさんがお地蔵さんに親切な行動をとり、恩返しによって裕福な正月を迎えることができる話である。この物語は、場面ごとの人物が様子が変わり話の面白さを感じやすいと考えた。

そこで、言語活動は「物語の見所の入った本の帯を作ろう。」と設定した。見所を見つけるためには，人物様子や場面の様子を理解する必要がある。言葉を根拠に場面の様子や人物について正しく読み取ることで，更に物語に親しむことができると考えた。また，帯の役割として，読み手に興味を持

たせることであり，相手意識をもたせることができる。相手意識をもたせ意欲的に学習に取り組めるようにした。

また、言語活動を変えた適用題を「かさこじぞうの人物紹介カードを作ろう。」とした。おじいさんとおばあさんがの言ったことやしたことをもとにどんな人物なのか人柄を考えた。帯作りで習得した場面と人物の様子を捉える力が習得されていれば、その力を適用題で活用できると考えた。さらに、帯作りにおいて、人物の様子をほとんどの児童が「やさしい」という言葉で表現したため、登場人物の様子を詳しく表ことに課題が見られた。そこで、「類語集」を用いておじいさんやおばあさんの人柄を表す適切の言葉を考えさせた。

(4)単元で扱う学習材

・作品「お手紙」（光村図書２年下），語彙一覧，学習プリント

(5)単元を通した学習課題

場面ごとの人物の言ったことやしたことを　くらべて　見どころの入った本の帯を作ろう。

(6)単元の評価規準

・登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し，話の見どころを捉えている。

・登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し，人物の人柄を捉えている。

(7)単元中および単元前後の指導

本単元では、人物様子や場面の様子を捉える必要がある。言葉を根拠に場面の様子や人物について正しく読み取ることで，物語の見どころや面白さが見えてくるからである。そのため、単元中は場面ごとのおじいさんやおばあさんの言ったことやしたことから物語の面白さを見つけ、その根拠や理由を伝えることができるようにグループで対話をしながら考えをまとめた。

そこで、単元を始める前の前単元である「名前を見てちょうだい」では、劇を行うためにセリフや動きを考える際に、人物の言ったことやしたことを捉える必要性を感じさせた。また、読み方、動き方をより叙述に合うようにするために「語彙集」を用いた。さらに、本の帯のイメージや何が書いてあるのかを知るために、帯がついている本を紹介したり、本を並べて、常に目に入るような環境設定を行った。

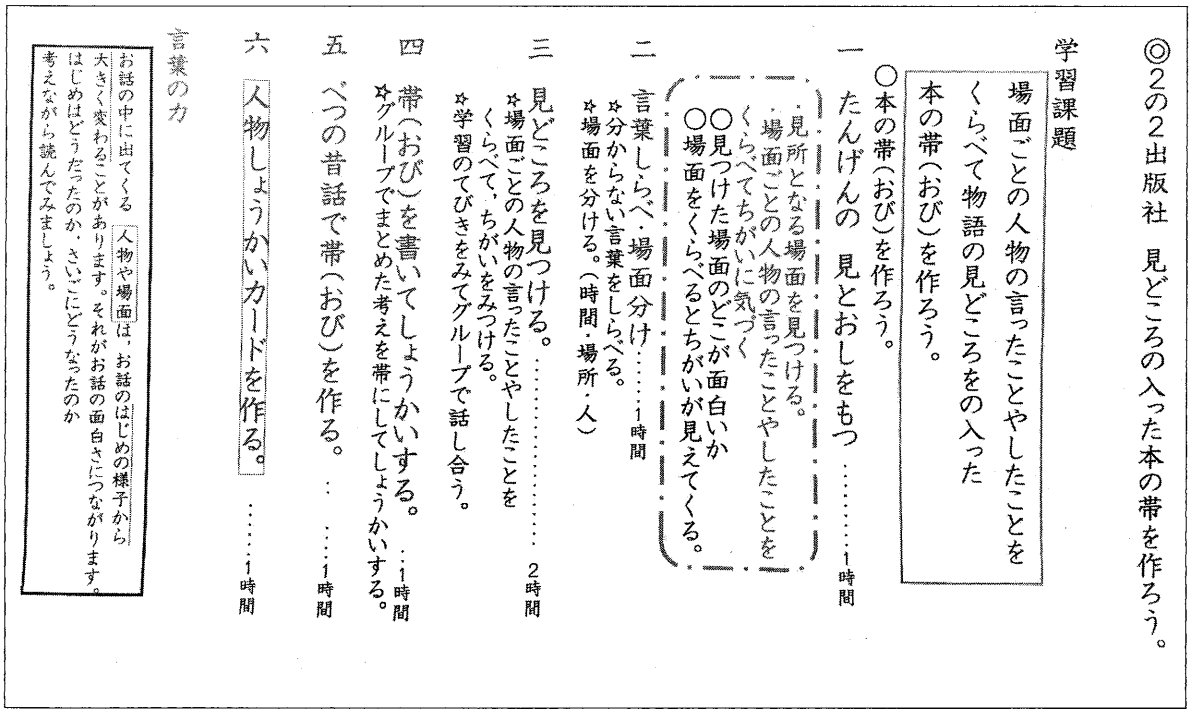
また、本単元の後には、適用題として、言語活動を「人物紹介カードを作ろうとし、指導内容は変えず言語活動をかえ取り組ませた。また，単元中に人物の言ったことやしたことから見どころを見つける際に、人物を表現する際に「やさしいおじいさん」など人物を表す言葉が「やさしい」に固定されていたので、「やさしい」の類語集を活用し、人物の様子にあった言葉を見つける活動を行った。

(8)単元の系統（作品名を並べるのではなく，「力」の系統）

物語を読むことにかかわった前の単元は，「場面の様子と登場人物の行動を捉えながら読む」ことを目標としたものである。本単元では，「場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。」ことを目標とし，次の単元では，「中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読み、感想を伝え合う。」ことの習得を目指す。

2.3　単元計画

単元びらきにおいて児童と見通しを確認するために以下の学習計画を配布した。



◎2の2出版社　見どころの入った本の帯を作ろう。

学習課題

場面ごとの人物の言ったことやしたことをくらべて物語の見どころをの入った本の帯（おび）を作ろう。

○本の帯（おび）を作ろう。

一　たんげんの　見とおしをもつ　……1時間

・見所となる場面を見つける。
・場面ごとの人物の言ったことやしたことをくらべてちがいに気づく
○見つけた場面のどこが面白いか
○場面をくらべるとちがいが見えてくる。

二　言葉しらべ・場面分け……1時間

☆分からない言葉をしらべる。
☆場面を分ける。（時間・場所・人）

三　見どころを見つける。……2時間

☆場面ごとの人物の言ったことやしたことをくらべて，ちがいをみつける。
☆学習のてびきをみてグループで話し合う。

四　帯（おび）を書いてしょうかいする。……1時間

☆グループでまとめた考えを帯にしてしょうかいする。

五　べつの昔話で帯（おび）を作る。……1時間

六　人物しょうかいカードを作る。……1時間

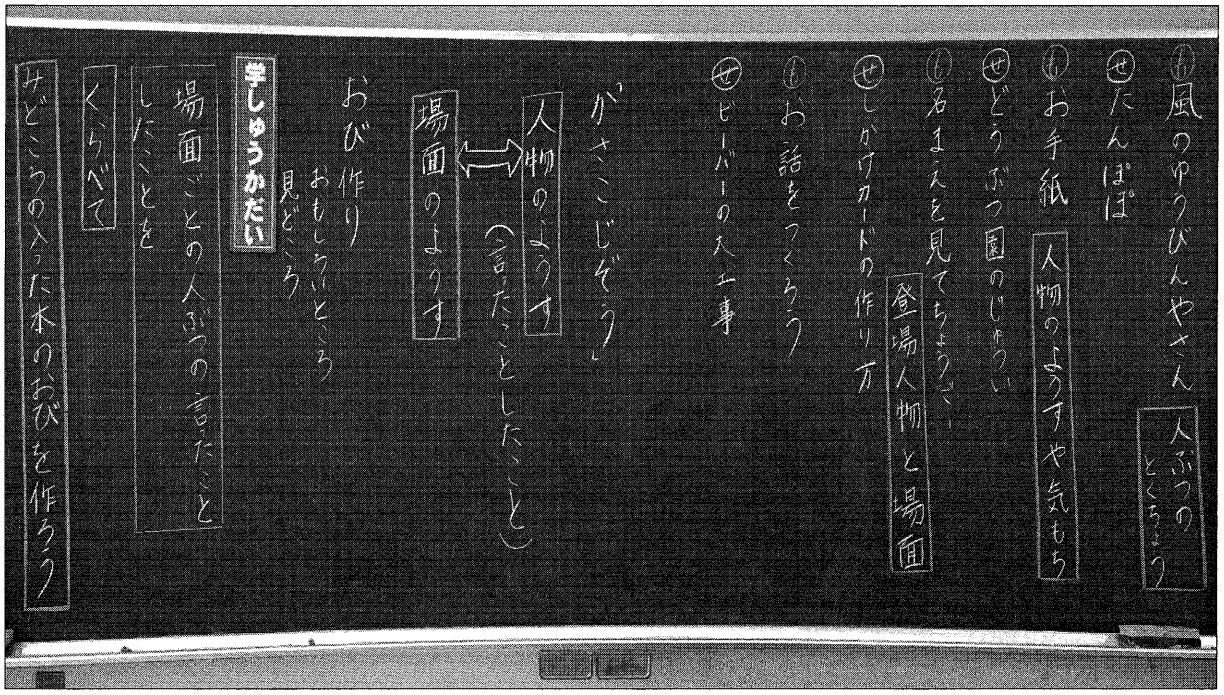
言葉の力

お話の中に出てくる人物や場面は，お話のはじめの様子から大きく変わることがあります。それがお話の面白さにつながります。はじめはどうだったのか，さいごにどうなったのか考えながら読んでみましょう。

児童に配布した学習計画

2.4　板書の例

下の板書は単元びらきのときのものである。



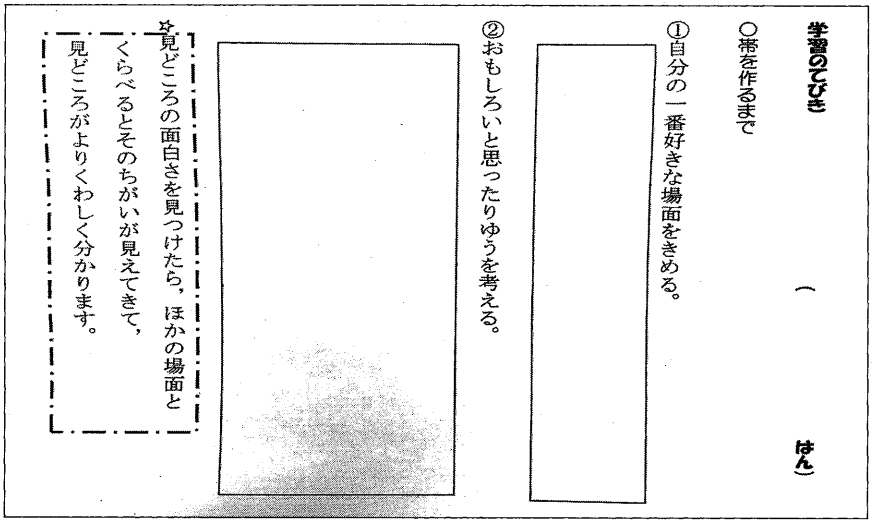
単元びらきの板書

３．本単元の言語活動と評価

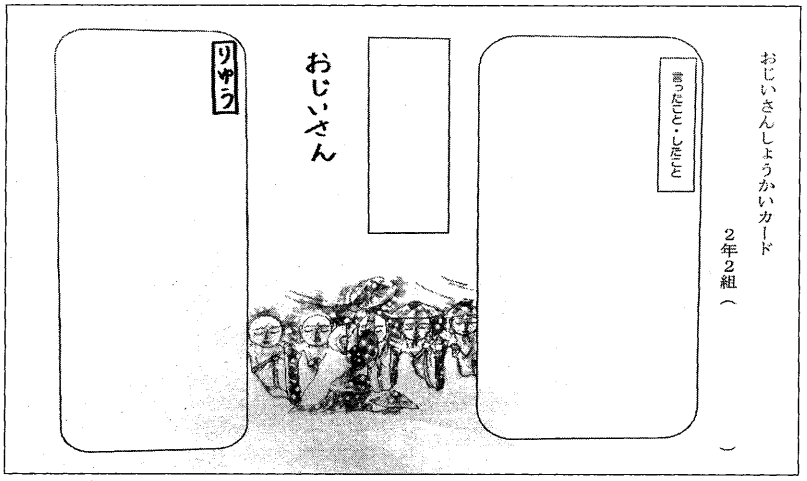
3.1　言語活動とその指導

学習プリントはＡ４サイズの用紙で，「自分の１番好きな場面」「おもしろいと思ったりゆうを考える。」の２項目の記入欄を設定し、まず「自分の１番好きな場面」は問いをもつために個人で自分の面白いと思う部分を見つけることができるようにした。次にその理由を人物の言ったことやしたこと、場面の様子などを根拠に考えることができるようにした。その後、考えたことから、帯の見出しを考えたり、言葉を精選したりしながら帯にまとめた。最後に、適用題として、「人物紹介カード」の学習プリントを用意し、人物の言ったことしたことから、その人柄にあった言葉を語彙集から選んだり考えたりしながらまとめることができるようにした。

(1)学習プリント



学習プリント（帯作り）



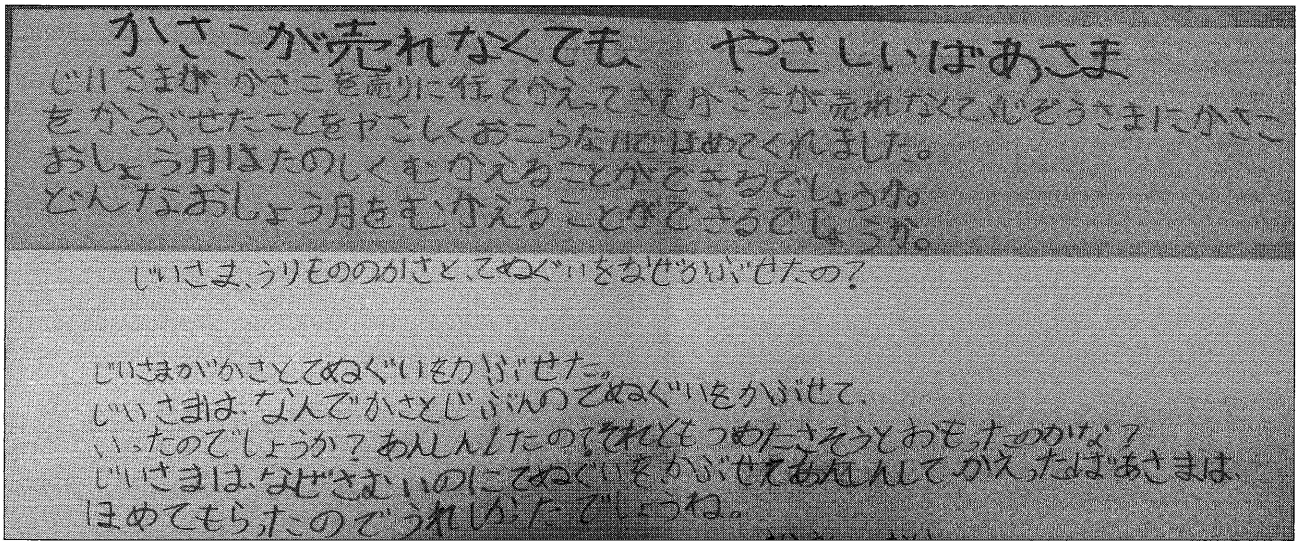
学習プリント（人物紹介カード）

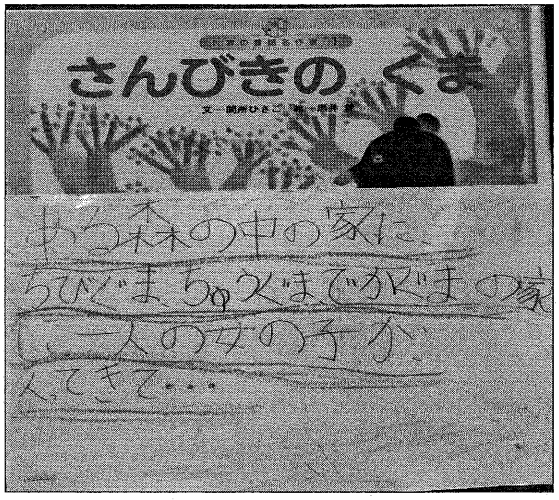
言語活動にかかわる指導として，まず、単元を始める前に帯のついた本を幾つか紹介し、見出しにはどんなことが書かれているか、本の見どころを短い言葉で伝えるにはどのようにすべきなのかなど帯に対してのイメージをもたせた。次に、活動モデルを示した。活動モデルを最初に示すことで児童は見通しをもって学習に取り組むことができたり、何を作り上げるべきかを理解したりすることができる。さらに覚えのある作品の帯をつくることでさらイメージを持ちやすくした。

児童は自分の好きな場面を選び、人物の言ったことやしたことをもとにその理由を考えた。また同じ場面を選んだ者同士でグループを作り、互いの見どころを紹介しあったりすることで、同じ場面でもそれぞれの見どころの共通点や相違点などを話し合いながら、読みを深めた。そこで深めた考えを帯にしていった。読んでもらいたくなるような見出しを考えたり、場面ごとの人物の様子の変化などを考えたりして、内容を短くまとめて「かざこじぞう」の帯を書いた。

帯作りが終わると、適用題として様々な昔話や伝記などから作品を選び、帯を作った。（手段や方法は変えずに題材だけを変えるもの。）一度経験した言語活動なので、こどもズムーズに作業することができた。書き終えた帯は本に巻き、図書室で展示してもらい実際に読み手にがふれることができるようにした。

さらにここで、適用題として「人物の紹介カード」を作成させた。（言語活動を変えて行うもの。）単元の中で、おじいさんとおばあさんの様子に「やさしい」という表現が多く用いられた。しかし、人物の様子や行動は確かにやさしいが、登場人物の人柄を表現する適切な言葉があると考え適用題として設定した。そこで、「やさしい」の類語を集め、「やさしい」類語集を手引きとしてもたせ活動に取り組んだ。すると、子ども達は場面ごとの人物の言ったことやしたことを探しながら人物の人柄にあった言葉を選び始めた。言語活動は変わっても習得した学習内容を活用しながら活動を行う子どもの姿が見られた。





言語活動で児童が書いたもの

3.2 評価

評価規準にもとづき，次のように評価を行った（抜粋）。

> じぞうさまが、じいさまとばあさまのうちに・・・
>
> かさこをかぶせてきたじいさまの家の前で６人のじぞうさまが、何やら重いものをずっさんずっさん下ろしていきます。重いものとは一体なんなのでしょう。やさしい二人のじいさまとばあさまのお正月は一体どうなるのでしょう。かなしい正月か、楽しい正月かどっち！！

（1－1）児童Ａが書いたもの（本の帯）

児童Ａはかさこをかぶせた人物のしたことに着目して書いている。その後の展開とも結びつけ、場面の全体の様子を捉えている。このことから、登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像する力が習得することができたと判断することができる。人柄については「やさしい」と表現している。

（1－2）児童Ｂが書いたもの

> かさこは５つでもじぞうさまは６人どうするじさま・・・
>
> じさまがふと顔を上げるとじぞうさまが６人立っていました。じいさまはぬれて冷たいじぞうさまの肩やらせなやらをなでました。じいさまはじぞうさまにかさこをかぶせることにしました。でもかさこは５つ、じぞうさまは６人どうするじさま。このあと、じいさまはどんなこうどうをとったでしょう。

児童Ｂはじぞうさまにかぶせるかさこが１つ足りないことや冷たいじぞうへの接し方などを見どころと捉え、その後のじいさまの行動に注目している。児童Ｂはある場面に着目し、人物のしたこしたことを捉えている。このことから、登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像する力が習得することができたと判断することができる。

（1－3）児童Ｃが書いたもの

> ばあさまとじいさまは、お金もなしでさいごはどうなるのでしょう。
>
> じいさまが、かさこを売りに行って帰ってきてかさこが売れなくて、じぞうさまにかさこをかぶせたことをやさしくおこらないでほめてくれました。お正月は楽しく迎えることができるのでしょうか。どんなお正月を迎えることができるのでしょうか。

児童Ｃは、じいさまとばあさまのしたことや１場面の貧乏な状態からの移り変わりに着目している。このことから、登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像する力が習得することができたと判断することができる。人柄についてこの児童は「やさしく」を用いて表現している。

（2）言語活動を変えて後の児童が書いたもの（人物紹介カード）

帯作りで登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像する力が習得することができたと判断することができる。しかし、言語活動を変えて行うと身に付けた力は活用できるのか。また人柄についてこの児童も「やさしい」に固定された表現であった。そこで言語活動の中で人物の人柄にあった言葉を見つけ語彙を広げるための活動を行った。

（2−1）児童A書いたもの

おばあさん紹介カード
□ 言ったことしたこと
すると、ばあさまはいやな顔一つしなかった。「おおそれはいいことをしなすった。じぞうさまもこのゆきじゃさぞつめたかろう。さあさあ、じいさま、いろりにあたってきだされ。」
の人物の様子から[おんじょうな]おばあさんにしました。
□ 理由　おじいさんが何も言わないで売り物のかさをかぶせたけどいやな顔一つしなかったから。

（2−2）児童Bの書いたもの

おじいさん紹介カード
□ 言ったことしたこと
傘をじぞうさまにかぶせました。自分の傘をじぞうさまにかぶせた。「おらのでわりいがこらえてください。」「これでええ、これでええ。」
の人物の様子から[なさけぶかい]じいさんにしました。
□ 理由　じいさまは自分のつぎはぎの手ぬぐいをかぶせたから。

児童A・Bは言ったことしたことを捉え、その言葉をもとに人柄を考え、温情や情け深いなどという言葉をで表現できている。数ある類語と人物の言ったことしたことをつなぎ合わせ根拠を持って表すことができた。これは言語活動が変わっても、習得すべき力を活用しているといえる。さらに、人柄に合った言葉を人物の様子から正しく選ぶことができている。

（2−3）児童の「やさしい」からの変容

おじいさん…あたたかい、なさけぶかい、ゆかいな、人や物を大切にする、しんせつ、人やものを大切にする、相手を気づかう、心配性な、心やさしい、思いやりがある　等
おばあさん…心の広い、思いやりがある、心やさしい、思いやりのある、心ある、心あたたかいにこにこな、心がこもっている、お母さんみたいな、やさしすぎる、自分のことより人のことを考える、じんとくのある、おんじょうな　等

以上が「やさしい」からの変容である。子ども達は読み取った場面ごとの人物の様子から叙述や自身の経験などを根拠や理由としながら、自分なりに言葉を選び活用することができてきた。さらに、根拠を持つ際に自分の経験や体験などと結びつける子どももあり、発展的に活動を進めていた。このことにより言語活動を変えることで、習得した力に加え新しい力を使おうとすることがわかった。

4．考察

4.1　「どのようにして確かなコンピテンシーを活用する子どもの姿を表出できるか」にかかわって

本実践は，「どのようにして確かなコンピテンシーを活用する子どもの姿を表出できるか」ということを問題意識にして単元をつくった。実際，確かなコンピテンシーを設定し習得できれば言語活動をかえても身に付けた力を活用できると考えられる。それは以下の点で明らかになった。

- 言語活動をかえることでコンピテンシーが習得されているのかが明確になる。
- コンピテンシーが明確になるので習得した力を評価しやすい。
- 言語活動をかえることで、汎用的に活用でする力を確かめることができる。
- 単元の中で生まれた課題を取り入れながら言語活動を設定することもできる。

4.2　単元を通した子どもの学びにかかわって

本単元を通して，児童の主体的で対話的な学びの姿が見られた。単元の学びの中で「学習課題」「問い」「語彙指導」の観点からも述べていく。

まず、本単元における学習課題を「場面ごとの人物の言ったことやしたことを比べて見どころの入った本の帯を作ろう」とした。まず，学習内容として，「登場人物の行動や会話をもとに場面の様子を捉える。」ことと設定した。「かさこじぞう」は，次期学習指導要領〔知識及び技能〕の（3）「ア　昔話や神話・伝承などについて，読み聞かせを聞くなどして親しむこと」であるが，次期学習指導要領の第１・２学年C読むことの「（1）イ場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を読み取ること。」と関連させて学習を行った。次に，言語活動は「見どころの入った本の帯を作ろう。」と設定する。見所を見つけるためには，人物や場面の様子を理解する必要がある。言葉を根拠に場面の様子や人物について正しく読み取ることで，更に物語に親しむことができると考えたからである。また，帯の役割として，読み手に興味を持たせることであり，相手意識をもたせることができる。相手意識をもたせ意欲的に学習に取り組めるようにした。最後に思考操作を「比べて」とする。場面ごとの人物の様子を比べることで，様子の移り変わりがより明確になり，物語の見所を見つけることが容易になると考えたからである。

次に、「問いを立てることにかかわって」では、子ども自身が課題達成へ向けて何をしなければならないのかをメタ認知することができた。自分が今何をすべきなのか一人一人が理解できることで活動は主体的に進む。さらに、まとめや振り返りも問いがあることで振り返るべき基準ができた。本実践での問いが以下の通りである。問いに関しては課題も多くあるが、一人一人が自らの問いをもつことができた。以下がある児童が書いた問いである。

- 場面分けをすることができるか。
- ４場面の見どころを教科書を見て見つけることができるか。
- おもしろいと思った理由が書けるか。
- 見どころを見つけて本の帯を作れるか。
- 「３びきのくま」を読んで帯が書けるか。
- 分からない人のために本の帯の作り方を教えることができるか。
- まず，おじいさんかおばあさんかおじぞうさまのどれにするかきめることができるか。
- おじいさんのしょうかいカードを作るために，言ったことやしたことを見つけてぴったりな言葉を見つけて理由を書けるか。
- おばあさんのしょうかいカードを作るために言ったことやしたことを見つけてぴったりな言葉を見つけて理由を書けるか。
- 風のゆうびんやさんしょうかいカードを作るために言ったことやしたことを見つけてぴったりな言葉を見つけて理由を書けるか。
- オオカミしょうかいカードを作るために言ったことやしたことを見つけてぴったりな言葉を見つけて理由を書けるか。"

以上がある児童の単元が始めから適用題の変更までの問いである。最初は簡易的な問いから始まり，学習する内容や言語活動を把握していくとどんどん問いを更新する姿見られた。一人一人が問いをもつことで自分なりのペース配分で学習がきでる。これが子どもの主体性につながるのではないだろうか。

「語彙学習にかかわって」では、人物や場面の様子を表現するにしても、語彙力は重要である。「やさしいおじいさん」では、おじいさんの人柄や様子をより適切に表すには安易な表現である。そこで単元の中で言語活動を通して学習する中で、常に語彙を必要とする条件や言語活動の設定が必要であると考える。今回の単元では、昔話なので、昔話に使われる語彙の習得を行った。さらに、帯を作っていく上で子どもがおじいさんとおばあさんの人柄の表現が「やさしい」に固定されているという課題が生まれた。適用題での言語活動を変える中でその課題解決に向けた語彙指導を取り入れながら行うことができた。

5．展望

5.1　本単元の成果

本実践研究は「どのような言語活動を設定することで、確かなコンピテンシーを活用する子どもの姿を表出することができるのか」ということを問題意識にして取り組んできたものである。3.2 でも詳細に評価について検討したが，本単元では目標とする資質・能力を育成することができた。習得する力が明確であれば、どんな言語活動でも目標とする資質・能力の育成に有効であると考えられる。

言語活動を変えた人物紹介カード作りでは，単元で身に付けさせたかった登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像する力が習得することができたと判断することができる。更に，言語活動を変えて行うと単元の中で生まれた課題を取り入れることができる。今回は，人物の人柄を表現するにあたって，「やさしい」に固定されていた。そこでこの課題を取り入れた言語活動を行い，人物の人柄にあった言葉を見つけ語彙を広げるための活動を行うことができた。言語活動をかえ汎用的に活用することで，確かなコンピテンシーが習得されているのかが明確になると言える。更に，コンピテンシーが明確になるので習得した力を評価しやすいのではないかと考えた。

本実践の言語活動では，単元の中から「やさしい」と言う言葉から様々な変容を見せた。子どもは語彙が増えることで様々な表現の幅が広がる。子ども達は読み取った場面ごとの人物の様子から叙述や自身の経験などを根拠や理由としながら、自分なりに言葉を選び活用することができてきた。さらに、根拠を持つ際に自分の経験や体験などと結びつける子どももあり、発展的に活動を進めていた。このことにより言語活動を変えることで、習得した力を活用しさらに新しい力を使おうとすることがわかった。言語活動を変えることで、習得した力を活用でき、さらに発展的な力の習得や次単元へとつながると考えることができる。

5.2　今後の実践に向けての課題

単元において、習得すべき資質・能力を身につけることで、適用題で言語活動を変えても活用することができるが、言語活動と学習課題とのつながりや、変更する言語活動をどのようにつくるのかという問いが残る。今回の実践では、言語活動を変更したが、教材は変更すべきなのか。思考操作を変更しても課題を達成できるのか。など、言語活動と学習課題のつながりの検討を行う必要がある。また、どのような言語活動を設定することで、確かなコンピテンシーを活用する子どもの姿を表出することができるのかなど様々な課題がある。

今後は，「コンピテンシーを活用できる適用題での言語活動の設定の仕方」という問いをもち，その方法について研究を進めていきたい

（佐賀市立本庄小学校教諭）